

# 経営比較分析表

佐賀県 西佐賀水道企業団

業務名	業種名	事業名	類似団体区分
法適用	水道事業	末端給水事業	A5
資金不足比率(%)	自己資本構成比率(%)	普及率(%)	1か月20m <sup>3</sup> 当たり家庭料金(円)
-	76.40	12.96	4,669

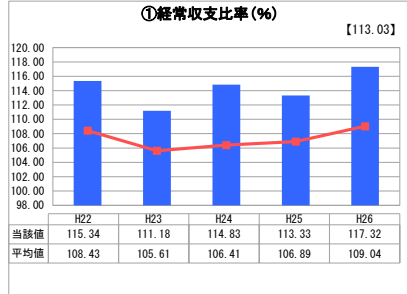
人口(人)	面積(km <sup>2</sup> )	人口密度(人/km <sup>2</sup> )
-	-	-
現在給水人口(人)	給水区域面積(km <sup>2</sup> )	給水人口密度(人/km <sup>2</sup> )
39,605	81.23	487.57

**グラフ凡例**

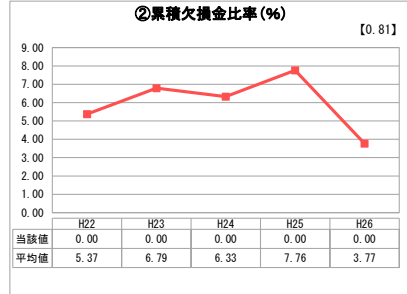
- 当該団体値(当該値)
- 類似団体平均値(平均値)

【】 平成26年度全国平均

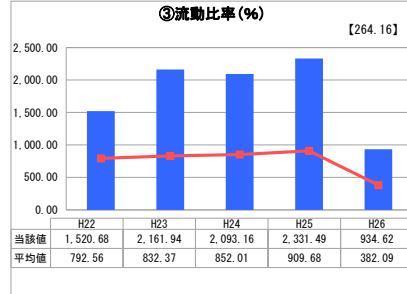
## 1. 経営の健全性・効率性



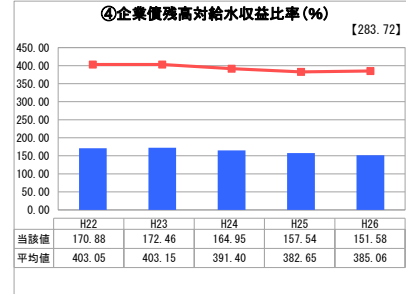
「経常損益」



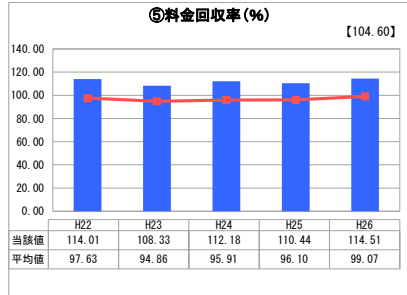
「累積欠損」



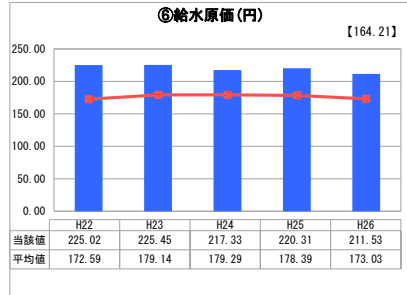
「支払能力」



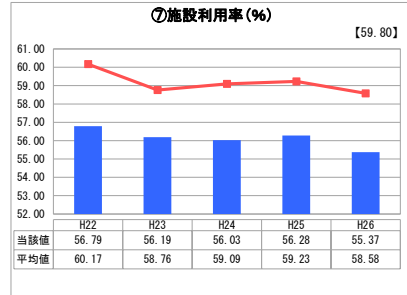
「債務残高」



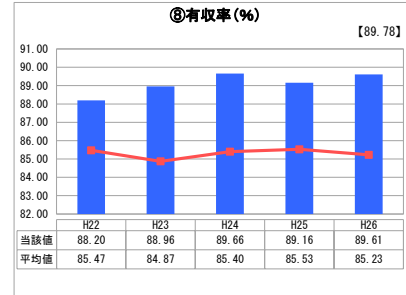
「料金水準の適切性」



「費用の効率性」

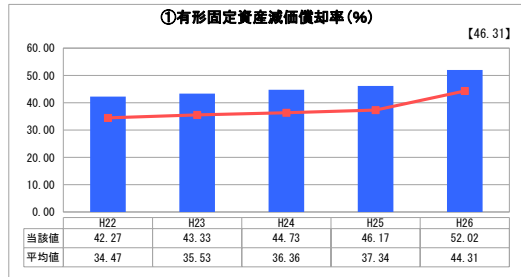


「施設の効率性」

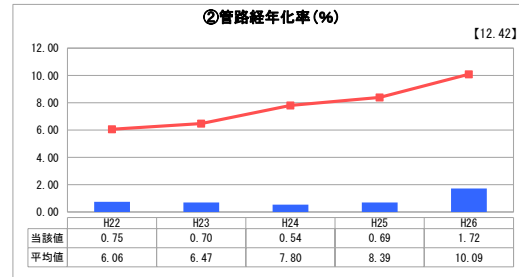


「供給した配水量の効率性」

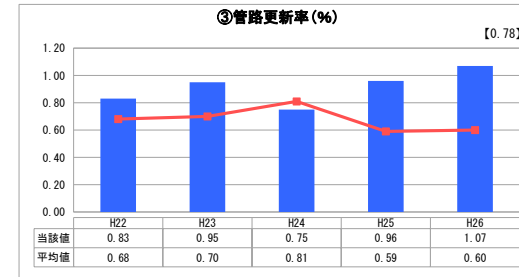
## 2. 老朽化の状況



「施設全体の減価償却の状況」



「管路の経年化の状況」



「管路の更新投資の実施状況」

## 分析欄

### 1. 経営の健全性・効率性について

当企業団は、累積欠損金もなく、経常収支比率についても平均値より良好な数値となっている。平成26年度に流動比率が減となっているのは、公営企業会計基準の見直しによる表面上の変化であり、施設利用率が低くなっているのは、佐賀西部広域水道企業団からの用水受水を行っていることに起因している。

現状、経営は良好な状態といえるが、人口減少、企業経営効率化に伴う工場等の撤退により、今後給水収益が減少していくことを見越しての経営が必要となっている。

### 2. 老朽化の状況について

当企業団の老朽化は、今後進んでいくものと考えている。現状、管路経年率は、平均値と比べ低い数値ではあるが、昭和53年頃から拡張工事を行っており、今後当時布設した管が一斉に更新時期を迎える。現在も計画的に更新を行っているが、今後、中・長期スパンで見た投資計画を再考していく必要がある。

### 全体総括

現状、当企業団の経営は良好な状態であるが、水需要の減少、施設の老朽化等の課題に直面している。限られた予算の中でできることは限界があるため、管の長寿命化に向けた新技術を取り入れること等により、効果的で効率的な運営を考えていかなくてはならない。

※ 平成22年度から平成25年度における各指標の類似団体平均値は、当時の事業数を基に算出していますが、管路経年率及び管路更新率については、平成26年度の事業数を基に類似団体平均値を算出しています。